くみあいNEWS

第１５３６０号
2024年９月19日(木)
発行責任者
日本製鉄和歌山労働組合
組織教宣部
WAKAYAMA WORKERS' UNION

組合ＨＰ　組合 LINE

代表内線番号　和歌山地区(本部)（54)－3590
堺地区　652990／海南地区(54)－5555

日本製鉄労連「第15回定期大会」報告

去る９月４日（水）に、日本製鉄労連は ANA クラウンプラザホテル神戸において、「第 15 回定期大会」を開催し、和歌山労組からは９名の代議員が参加しました。

大会議案の第１号議案「第７期後半年度活動方針（案）」に対し、各単組から原案賛成の立場で補強意見が出される中、和歌山労組を代表して稲垣執行委員が「死亡災害の撲滅と安全に強い職場の構築」、「魅力ある労働諸条件づくりと多様な人材の活力発揮」の２点について補強意見を述べ、その後、第２号議案「2025 年度諸会計予算(案)」、第３号議案「規定の一部改訂について(案)」も、満場一致で可決・決定され、日本製鉄労連第７期後半年度の活動が本格的にスタートしました。


ガンバロウ三唱

また、本大会の中で「村田きょうこ」参議院議員と「郡山りょう」氏から挨拶がありました。村田きょうこ議員からは今の鉄鋼業が抱えている問題と、国会の場で取り組んでいる内容について述べられ、「郡山りょう」氏からは、第 27 回参議院議員選挙に向けた決意が述べられました。

幸野会長挨拶（要旨）


幸野会長

現在、日本製鉄では死亡災害が２件、休業以上の災害が 19 件発生しており、労働組合の最重要課題である安全については、深刻な状況となっている。原因の本質的な追求と組合員の意識改善が急務であり、各単組の役員は危機感を持ち、組合員に対し基本的な安全行動の徹底を呼びかけるようお願いする。

また、取り巻く環境については、経営課題、脱炭素等のさまざまな課題が山積しているが、これらの問題に対しては、引き続き労使間で建設的な議論を行い、解決に向けた取り組みを進めていく。

さらに、後半年度の主要な取り組みである第 27 回参議院議員選挙では、各単組において、積極的な活動の展開をお願いする。

そして AP25 春季取り組みに向けては、AP24 の評価と課題を踏まえ議論を進めていく。

後半年度も各単組と連携し、目標達成に向けた具体的な活動を展開するとともに引き続き、労働政策ビジョンに掲げた目標の実現に向け粘り強い取り組みを推進していく。

日本製鉄労連「第7期後半年度活動方針（案）」に対する和歌山労組の補強意見



稲垣執行委員

ご安全に！和歌山労組代議員の稲垣です。

連合会第７期後半年度活動方針（案）に対し原案賛成の立場を明確にしたうえで、補強意見を述べる。

まずは「死亡災害の撲滅と安全に強い職場の構築」についてである。

和歌山労組は、労働組合の最優先課題である「安全と健康の確保」に向け、労使・直協連携のもと各種安全活動を展開している。しかしながら、関西製鉄所和歌山地区においては、休業災害が１件、不休災害が 19 件と依然として災害の発生に歯止めがかかっていない状況にある。

足元、発生している災害は、これまで会社に経営資源を投入していただいている機械安全等、ハード面の対策では防ぐことができない不注意やリスク抽出不足等、個々人の意識・感性に起因するものが多く見受けられる。

引き続きの経営資源の投入は不可欠であるが、連合会におかれては、より一層安全に強い人づくりに向けて「個々人の意識・感性」「職場の固有リスク」等に着目した安全教育を実施する等、会社に対しソフト面の対策強化について意見提言をお願いする。

次に「魅力ある労働諸条件づくりと多様な人材の活力発揮」についてである。

まず、AP24 春季取り組みにおいては、要求額を上回る過去に前例のない回答が示され、現場第一線で働く組合員は、「やりがい」「働きがい」を抱くとともに与えられた職務と責任を全うし、これまで以上に会社の期待に応えていかなければならないとの想いから、日夜懸命に業務に励んでいる。また、賃金改善や関連諸制度等の改訂がなされてきたこともあり、労働政策ビジョンに掲げる「日鉄でよかった」との想いが職場に浸透し、離職率が減少傾向にあるものと認識している。

引き続き、連合会として、強いリーダーシップを発揮していただき、「製造業トップクラスの賃金水準の維持」そして更なる向上に向けた取り組みをお願いする。

あわせて、組合員は「交替勤務のあり方」について、ワーク・ライフ・バランスの交渉の場を通じて話し合いを進めいていくことに対し、強く関心を抱いていることから、前広な情報共有は勿論のこと、各単組との連携のもと現場実態を把握し議論を進めていただくようお願いする。

最後に、来年７月に施行される第 27 回参議院議員選挙においては、「郡山りょう」氏をなんとしても国政の場へ送り出すとの強い想いのもと、「組合員の投票率 100%」「候補者名の投票 100%」をめざす所存である。また、今回の選挙は、今後の「村田　きょうこ」議員の選挙戦に大きく影響することから、和歌山労組の組織の力を結集し全力で取り組むことをこの場でお誓い申し上げ、第７期後半年度活動方針（案）に対する補強意見とする。

基幹労連「第22回定期中間大会」報告



津村委員長

去る９月５日（木）から６日（金）において、基幹労連「第 22 回定期中間大会」が神戸文化ホールで開催されました。冒頭、基幹労連の津村中央執行委員長から「取り巻く環境について」「ＡＰ２５春季取り組み」「基幹労連政策の推進と政策実現活動」等について挨拶がありました。その中で、労働運動の基軸は安全と健康であるが、今年は既に昨年１年間を上回る 10 件 11 人の死亡災害が発生しており危機的状況であり、基幹労連として災害の連鎖に歯止めをかけ、組合員とその家族の幸せ追求へと繋げることが責務であると述べられました。

また、「村田きょうこ」参議院議員と「郡山りょう」氏からも挨拶がありました。「村田きょうこ」議員からは日頃応援していただいている方々へのお礼と、これまでの活動の成果と今後の課題を述べました。「郡山りょう」氏からは数カ月間行ってきたオルグの受け入れに対するお礼と、「現場の声ではたらくを変えよう」をキャッチフレーズに第 27 回参議院議員選挙に向けて、引き続き活動を展開していく決意が述べられました。

議案審議では、日本製鉄労連を含む１１の加盟組合から本部原案に賛成の立場で意見・要望の発言があり、第１２期後半年度活動方針をはじめとし全ての議案が確認されました

青女委員会にて清末議員が市政報告を実施


清末議員

去る８月 29 日（木）に開催した青女委員会において、組織内議員である「清末ひろよし」市議会議員が市政報告を行いました。

清末議員からは、これまで和歌山市議会で取り組んできたことを報告するとともに、「各自治体のホームページには必ずハザードマップがあるので、確認した上で大地震に備えて下さい」との注意喚起をしました。最後に、「私は会社員と市議会議員の二足のわらじを履いており、会社での業務を行いながら議員活動に取り組んでいます。毎週組合会館において相談窓口を開催しているので『市の補助の関係』や『市の諸制度』について、気軽に相談していただきたい」と述べました。


清末議員報告

これからも青年女性層のさらなるレベルアップを図るべく、青女委員会を中心に各種研修会などを実施していきます。

「ふるさと海南まつり」に参加しました



去る８月13日(火)に海南 nobinos 周辺において、第32回「ふるさと海南まつり」が開催され、和歌山労組が加盟する海南労福協（労働者福祉協議会）も祭りを盛り上げるべく、子ども向けの屋台を出店しました。この祭りは、久しぶりにふるさとに帰ってくる家族を温かく迎え、人と人との交流と憩いを目的に開催されています。

海南労福協は、この目的に賛同するとともに地域における福祉活動を活性化させるべく、平成７年より参加しており、今年は「スーパーボールすくい」を出店し、お子さまに大好評でした。この出店で得た収益金は、海南市を通じて福祉施設などに寄贈されます。

当日は、45,000 人もの方々が来場され、大賑わいでした。来年は皆様もご参加してみてはいかがでしょうか。

日本製鉄和歌山労働組合「第12回定期大会」開催のお知らせ

開催日時：10月３日（木）16：00～
場　　所：日本製鉄和歌山労働組合　組合会館２階　大会議室

議案内容：＜報告事項＞　一般経過報告・2024年度決算並びに会計監査報告・組合規程の一部改正
＜審議事項＞　第１号議案　第54期後半年度活動方針に関する件（案）
第２号議案　2025年度会計予算に関する件（案）

※日本製鉄和歌山労働組合第12回定期大会の開催に伴い、下記の通り大会関係者以外の組合会館前の駐車場を駐車禁止とします。ご理解とご協力をお願いします。

【日時】：10月２日（水）17：00～　【対象場所】：組合会館前駐車場（全面）

組合員投稿コーナー

今回は「我が家の防災対策グッズ」をテーマに投稿をいただきました!

ご安全に！鋼片工場の岡室（おかむろ） 元樹（もとき）です。

我が家の防災グッズはこれ！「防災リュック」です！

今年の１月に石川県で発生した大地震を機に他人事ではないと感じ（義弟が石川県出身のため）、また、南海トラフ地震もいつ来るか分からないと思い、防災リュックを購入しました。



この投稿コーナーの話をいただいたことを妻に相談したところ、すぐに購入していた防災リュックを出してきてくれました。そして、リュックの中に入れている缶詰になったパンを子どもたちに食べさせました。理由を聞くと、「被災した時、普段食べ慣れていない物を急に出しても食べなかったら意味がないから！」と、納得の返事が！



普段からの備えが大事だなと、再確認できました。